

3 - 1 1971年7～12月の関東地方の震央分布図

Seismicity Maps of the Kanto District for July-December 1971

東京大学地震研究所 地域センター室
Earthquake Research Institute

1971年7～12月の関東地方の各月の震央分布図を作製した(第1～6図), 震源決定の方法等は前に報告したもの^{1), 2)}と同じであるが, 今回は主として堂平微小地震観測所の筑波(TSK), 堂平(DDR), 清澄(KYS), 大山(OYM)の4点のデータを用いた。この他, 8月分には委託観測点の古峰ヶ原(KBH)のデータを加えてある。城山(SRY)と「南関東地殻活動調査」の一環として11月に新設した武山(TKE)および奥野(OKN)は今回の処理には間に合わなかった。これらのデータも加えた再決定を将来おこなう予定で, 今回の結果は暫定的なものである。なお必要に応じ, 気象庁, 国立防災センター, 震研筑波観測所(MTJ)のデータも使わせて頂いた。

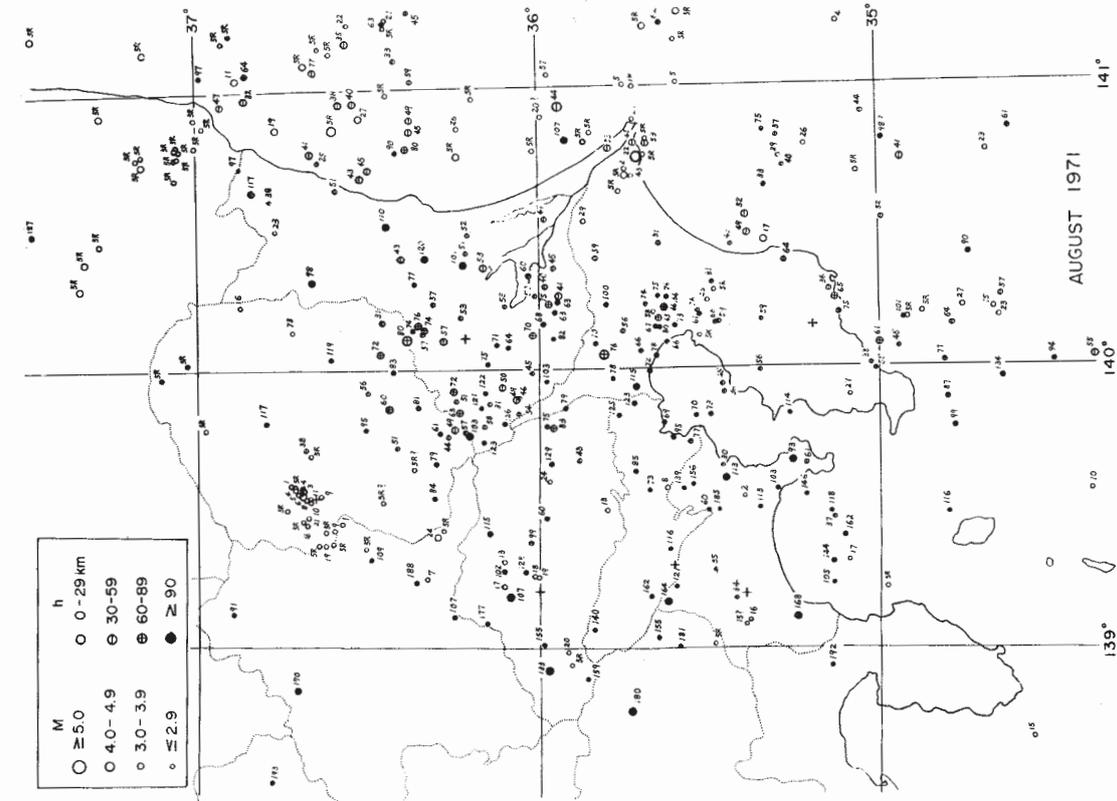
これらの図に関して気付いた点を列記すると,

- 1) 気象庁の結果でも分っているとおり, 鹿島灘, 茨城県南西部, 千葉付近, 銚子付近はほぼ定常的に活動している。特に千葉市付近に集中している活動が著しい。
- 2) 6月に起った九十九里浜沖の活動³⁾の影響は8月まで残っているようである。
- 3) 7月23日07時07分の山梨県東部の地震($M_{JMA} = 5.3$)は, 若干の余震を伴ったこの方面では浅い地震が定常的に発生している。
- 4) 10月11日19時16分の千葉県北部の地震($M_{JMA} = 5.2$)は, すくなくとも2箇の前震と, 多数の余震を伴った。
- 5) 相模湾の浅い地震の活動は, 極めて不活潑で, 伊豆半島寄りの部分を含めても月平均1.5箇位の発生頻度である。従って, この方面で1箇月に数箇以上の浅い地震が発生した場合には一応異常活動として注意してみる必要がある。一方房総半島南部から南沖にかけては, かなり活潑な活動が続いている。
- 6) 7月18日に埼玉県中部で, 8月10日頃栃木県西部で, 小規模な群発地震活動があった。

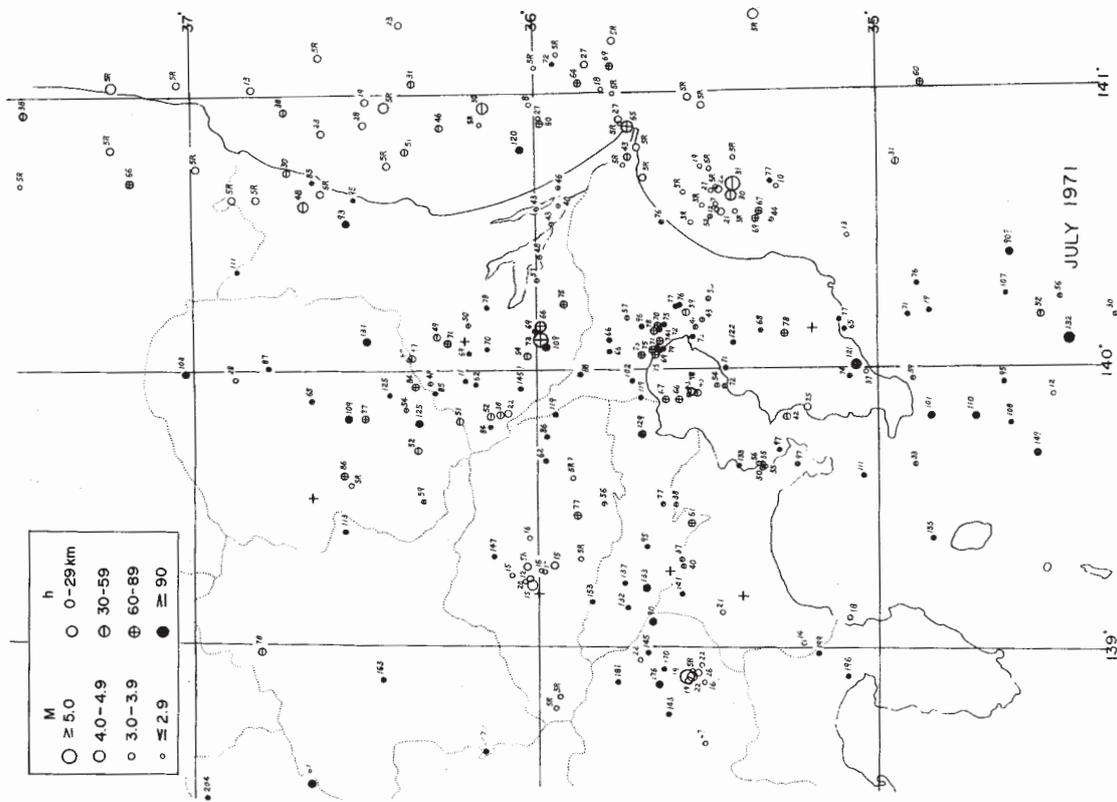
参 考 文 献

- 1) 東京大学地震研究所地域センター地震室: 関東地方における最近の微小地震活動, 地震予知連絡会会報, 第4巻, 1970。
- 2) 石橋克彦, 津村建四朗: 関東南部における微小地震臨時観測, 地震研究所彙報, 第49巻, 97 - 113, 1971。

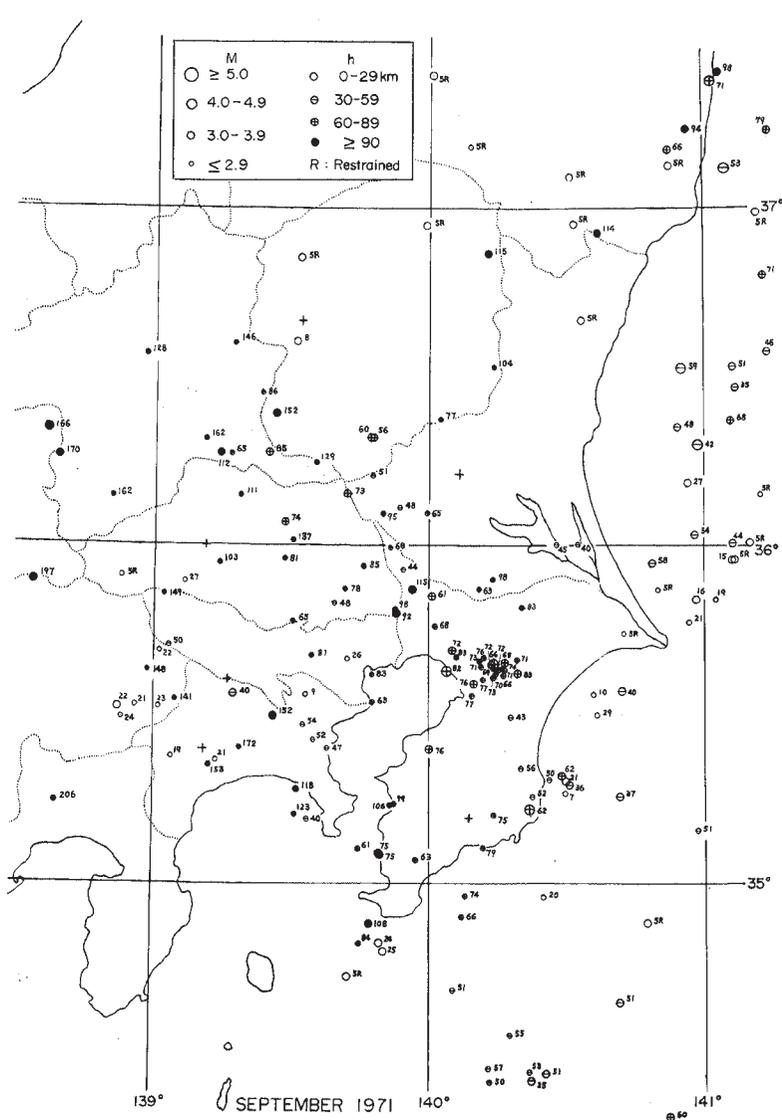
3) 東京大学地震研究所堂平微小地震観測所・地域センター室：房総半島九十九里浜沖の群発地震活動，地震予知連絡会会報，第6巻，1971。



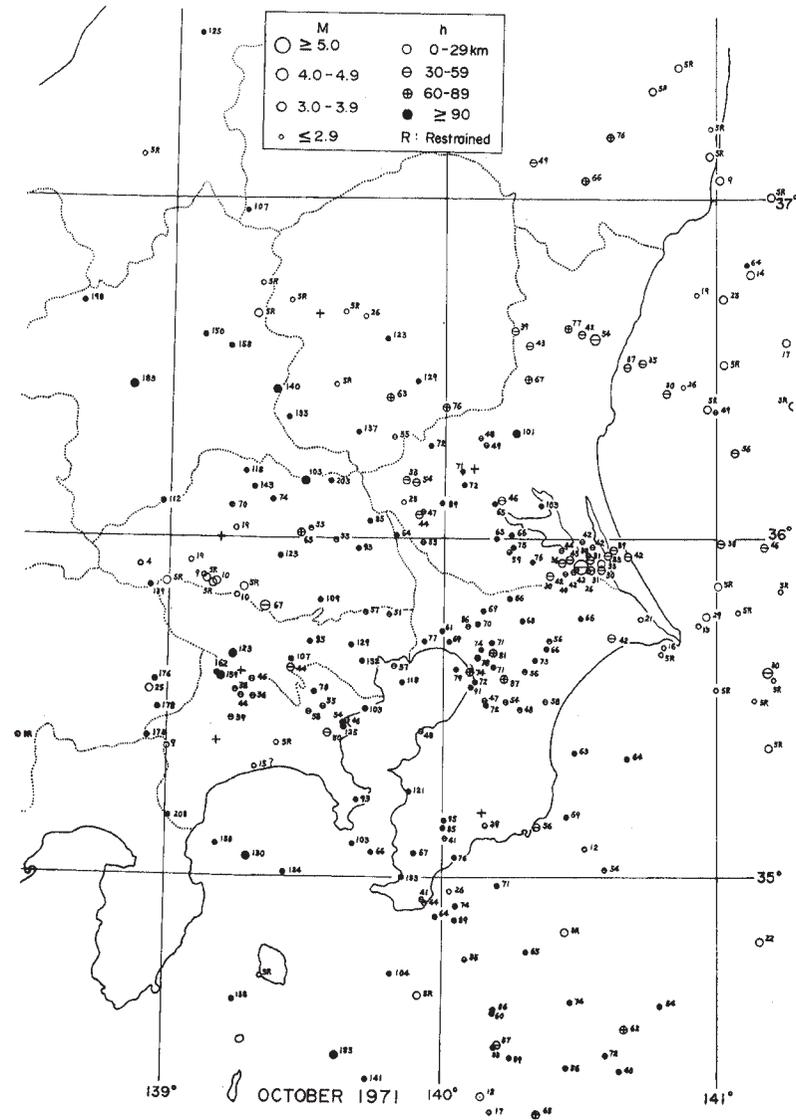
第2図・Fig. 2



第1図・Fig. 1



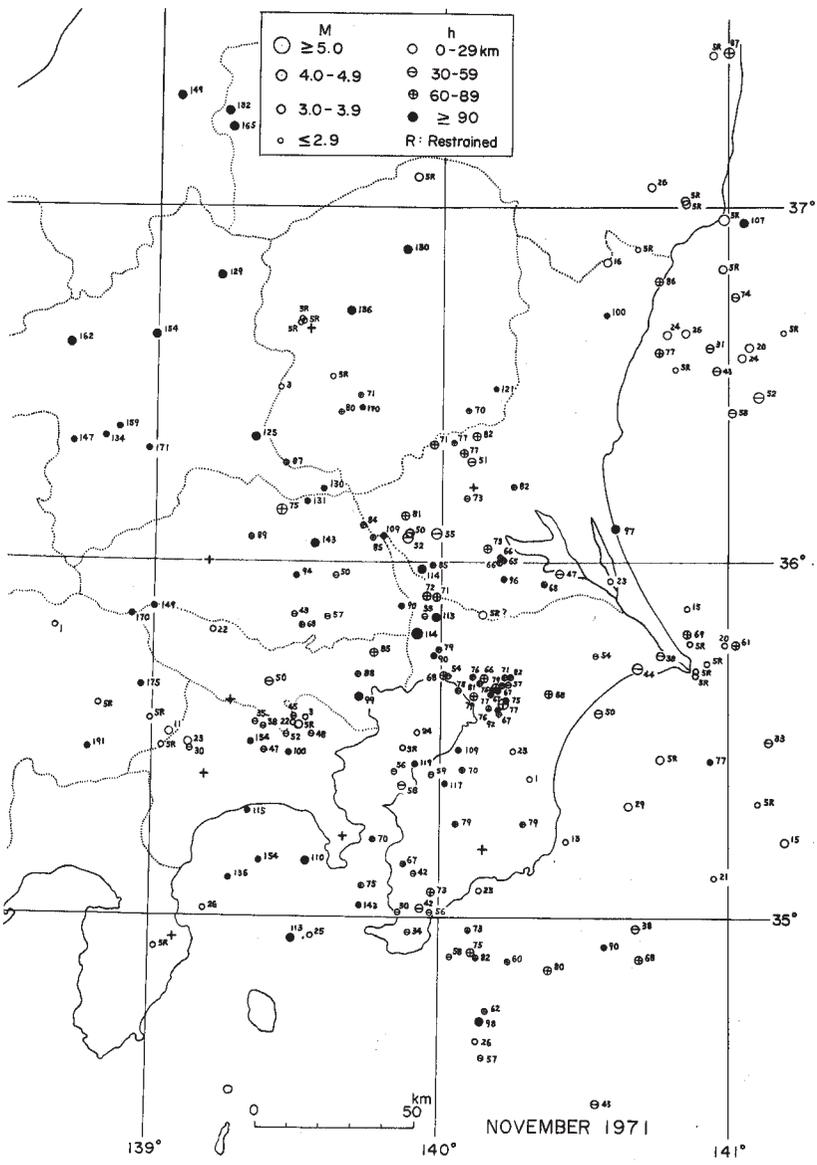
第3図・Fig. 3



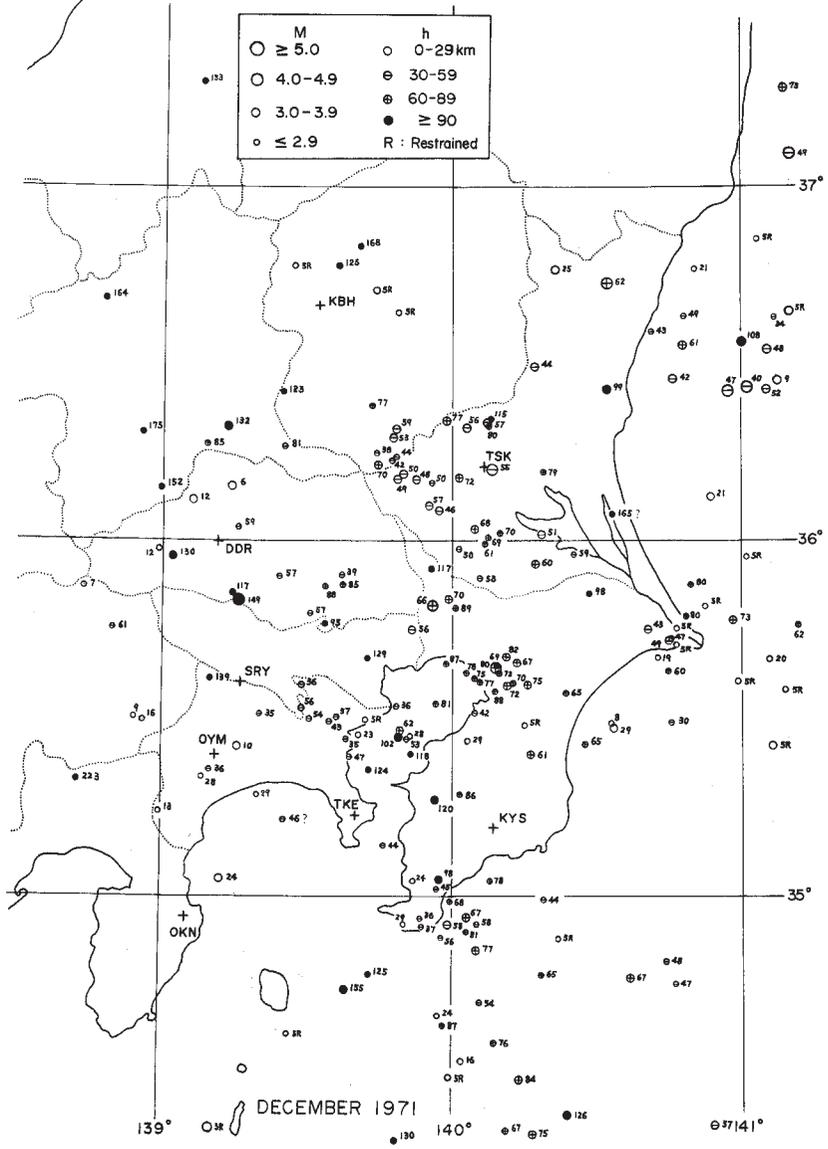
第4図・Fig. 4

第1～6図 1971年7月～12月の関東地方の震央分布図 数字は深さ（km），
5Rは深さ5kmに仮定したもの

Fig. 1～6 Epicenters for July - December 1971 in Kanto district.
Numerals are focal depths in Kilometer, 5R; Restrained at 5 km



第5図・Fig. 5



第6図・Fig. 6